

（公社）日本給食サービス協会会長賞

『命のバトン』

山形県天童市立長岡小学校 六年二組 女子 菊地 夏姫

「いただきます!!」

は、食べ物を食べる時にならぬという言葉だ。私はこの言葉が大好きだ。大好きになったきっかけは、五年生の時授業で『命のつながり』を勉強したことだ。

山川さんという牧場を経営している人が命のつながりをたくさん教えてくれた。山川さんが最初に話してくれた一言はあとから考えると「なるほどな。そういう意味で山川さんは質問したんだ。」と、深く考えることができた。初めて山川さんと会ったとき山川さんはいきなり変なことをいいた。

「自分が悪者だと思つて手は挙げるー!」
いきなり言われて私は最初おどろいた。

「自分がいいやつだと思つて人は手を挙げるー!」
と、言われ私は「何いってんの?意味不明。」と思った。山川さんはその質問をしたあとに、鶏や牛、豚が何日で死ぬのかなどを教えてくれた。私はその事実を聞きおどろいた。山川さんは、

「みんなが大好きなフライドチキンは四十日で殺された鶏なんだ。」

と、言った。私はびっくりした。その他にも鶏に卵をたくさん生ませるためにひどい方法で卵を出させていたり、人間達が

「もっともっとやわらかくて食べやすいおいしい牛肉・鶏肉・豚肉が食べたいー!」

と言いつつ、殺すのがもっと早くなったりしていた。「鳴いても何も変わらない。殺される日が怖い。生肉工場に連れてこられたけど血生ぐさいにおいがする。」想像しただけでつらかった。人間は自分勝手に動物達のことを考えない。家畜を思い通りにさせる。残こくだと思つた。牛を売ったり買ったりする人も生きていくためには、必要なことなのかもしれないけど、牛、鶏、豚、その他の動物に明るい未来はないんだと思つた。悲しかった。山川さんの話が終わったあと、深く考えてしまうことがたくさんあった。その後私達ももっとくわしく命の勉強をするために山川さんの牧場に行った。何をするのかとつてもワクワクした。山川牧場でたくさん「初めて」に出会えた。一つめは、牛の乳しぼりができたこと。牛の乳はやわらかく温かかった。なぜかわからなかったけど心が温かくなった。命のつながりを実感できた気がした。牛を触った時もうれしかった。牧場では、命のビデオも見た。高校生の男女が教育実習をして、鶏の面倒を見て愛着を持ったときに自分達で鶏を殺し、鶏肉にし自分達でカレーを作り食べていた。泣いている人も口にカレーが入れない人もいた。でも、命のつながり、ありがたさに深く気づけたと感じた。この授業をしたおかげで毎日残ぱんがあったけど六年生全クラス給食を毎日残さずおいしく食べている。食べ物一つ一つに、命があること、たくさん命のつながりがありその命のバトンに感謝していきたい。